ISSN 0389-8636

国文学研究

第百八十一集

『日本書紀』の「孝」 ――「孝」をめぐる歴史叙述――　高松寿夫　1

家持の応詔儲作歌 ――その発想の基盤――　松田聡　11

「敷島の道」の消長 ――『太平記』の和歌を通して――　平田英夫　23

浅井了意『観無量寿経鼓吹』について ――典拠とその執筆背景――　木村迪子　36

武蔵野をめぐる言説空間 ――国木田独歩「忘れえぬ人々」を中心に――　芦川貴之　49

二郎の悲劇から読む『行人』 ――「研究」「家庭」の葛藤と断絶の意義とをめぐって――　戸崎彩香　63

夢の中での〈北方〉 ――宮沢賢治「花椰菜」における「戦間期」の内面――　中村晋吾　77

太宰治「男女同権」におけるジェンダー化された敗戦言説からの逸脱 ――被害者と加害者の関係の複雑化――　タリヤルヴ・マルギス　90

開高健によるアドルフ・ヒトラー ――「屋根裏の独白」の方法――　山田宗史　103

〈書評〉

堀誠著『日中比較文学叢考』　中村佳文　117

山中悠希著『堺本枕草子の研究』　津島知明　121

野中哲照著『保元物語の成立』　早川厚一　125

小野恭靖著『歌謡文学の心と言の葉』　安田文吉　129

小財陽平著『菅茶山とその時代』　堀川貴司　133

能地克宜著『犀星という仮構』　大橋毅彦　136

新刊紹介　彙報　編集後記

早稲田大学国文学会

前号目次

柿本人麻呂「吉野讃歌」の構想
——第一歌群から第二歌群への展開——　木村康平

「伊勢系」先代旧事本紀の再検討　松本弘毅

『源氏物語』夢浮橋巻の構造
——錯綜する時間を手がかりに——　山田利博

『諸国百物語』論
——怪異と人との関わりを中心に——　塚野晶子

式亭三馬『契情畸人伝』の典拠をめぐる一考察　長田和也

正岡子規の漢詩の小説的結構と「写実性」について　池澤一郎

センチメンタリズム言説批判の刷新
——広津和郎「志賀直哉論」における「眼」と「本能」——　永吉和隆

安部公房の生政治／死政治
——「事業」から「R62号の発明」へ——　鳥羽耕史

経済・階級・天皇
——大岡昇平『天誅組』論——　立尾真士

京阪地域における一段動詞の五段化傾向とアクセント
——淡路島とその周辺地域を中心に——　山岡華菜子

〈書評〉

陣野英則著『源氏物語論——女房・書かれた言葉・引用——』　土方洋一

立尾真士著『「死」の文学、「死者」の書法
——椎名麟三・大岡昇平の「戦後」——』　野田康文

新刊紹介　彙報　編集後記